

2011 分子システム 科学国際シンポジウム

— 若手研究者のためのグローバル COE シンポジウム —



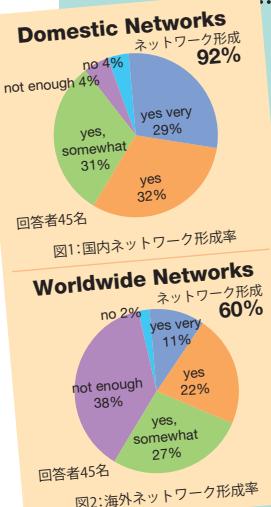
世界から多くの若手 研究者が集い発表

九州大学グローバル COE(G-COE)
「未来分子システム科学」(平成19~23年度、
拠点リーダー：君塚信夫 工学研究院応用化学部門 主幹
教授)主催の国際シンポジウムを2011年5月9日(月)~11日(水)、福岡市海の中道ルイガニスで開催しました。

今回のシンポジウムには、国内から66名、海外から30名の計96名が参加しました。そのうち、若手研究者が参加者の70%強を占め、九州大学28名、韓国・延世大学20名、東北大学を含む8つのG-COE拠点から22名の総勢70名の若手研究者が参加し、発表を行いました。

国境を越えたグローバルなネットワークを構築

シンポジウムの初日は新進気鋭の招待講演者による模範講演(豪州、台湾より2名の招待講演、延世大学から6名、九州大学から4名の講演)、二日目、三日目は若手24名の口頭発表、46名のポスター発表を行いました。口頭発表やポスター発表ならびにその質疑応答は



すべて英語で実施しました。特に九州大学の博士課程学生の発表はいずれも極めて高水準であり、当拠点の教育研究活動の集大成となりました。また、若手参加者を無作為に15組に分けてイブニングディスカッションを実施し、研究や将来の夢を深夜まで語り合いました。今回、海外からは韓国・延世大学が、国内からは化学系G-COEを代表する多くの学生を含む若手研究者が参加し、将来彼らが研究者として自立する上で必要不可欠である、大学の枠組みや国境を越えたグローバルなネットワークが構築されました。参加者のアンケートによると、このシンポジウムによって、若手研究者のうち、6割がワールドワイドのそして9割が日本国内のネットワークが形成できたと回答しました。(図1、2参照)

このような若手研究者のネットワーク形成につながる環境づくりは、従来の国際シンポジウム等では十分に行われます。

最後に九州大学の学生のイブニングディスカッションに対するコメントを記します。

I really enjoyed this symposium. Through the free discussion, we could share our ideas, feelings and future plans. Also we could learn something about each other's country and culture.

